

令和5年度 東国文化自由研究

金井遺跡群及び 黒井峯遺跡の活用による 古墳人文化発信の提言

群馬県立中央中等教育学校

1年 3組 5番

氏名 岩崎 天飛

I.研究の動機

私が住む渋川市には、「金井遺跡群」及び「黒井峯遺跡」と呼ばれる古墳時代の集落遺跡がある。このうち黒井峯遺跡は、当時の景観や暮らしの実態を明らかにしたとして、平成5年度に国の史跡に指定されている。又、金井遺跡群の1つである金井東裏遺跡からは、日本で初めて甲(よろい)を身に纏ったままの人骨(甲を着た古墳人)が発見された。

どちらも発見当時は世間からの大きな注目を集めたが、現在は草むらが広がり、小さな解説板がひっそりと立っているだけである。

古墳時代の人々の生活の様子を伝える上で、これらはとても価値がある遺跡である。これらを活かし、多くの人々に古墳人の生活の魅力を発信する為にどのようなことができるのか、と疑問に思い、詳しい現状の調査及び最適な改善案の考案を行いたいと考えたからだ。



(Google Earthより引用)

II.研究の方法

- ①インターネット上で同時代の遺跡の整備等の参考事例について調査
- ②実際に2つの遺跡に行き、整備に関する詳しい現状等について調査
- ③調査の結果をまとめ、最適な遺跡の活用案について考える。

Ⅲ.調査

①金井下新田遺跡(金井遺跡群)

<良かった点>

- ・発掘当時の画像を用いた大きめの解説板*¹が設置されていた。
- ・近くには上信自動車道金井ICや、県道35号線等の規模が大きい道路があり、アクセスしやすい。

<改善点>

- ・地面は舗装されておらず、簡易的なシートで覆われているため、少し凹凸感が見られる。
- ・近くに案内板*²が設置されておらず、場所が分かりにくい。



(全体を望む
以下、2023.8.10 自分で撮影)

②金井東裏遺跡(金井遺跡群)

<良かった点>

- ・周りがフェンス等で覆われており、公園のように整備されている。(①)
- ・発掘された場所を示す小さなプレートが多数存在する。(②)
- ・全体の概要を示す大きな解説板が設置されている。(③)
- ・金井交差点付近の道路に、簡易なものではあるが案内板が設置されていた。(④)



(①全体を望む)



(②発掘場所を示すプレート
写真は鎧を着た古墳人)



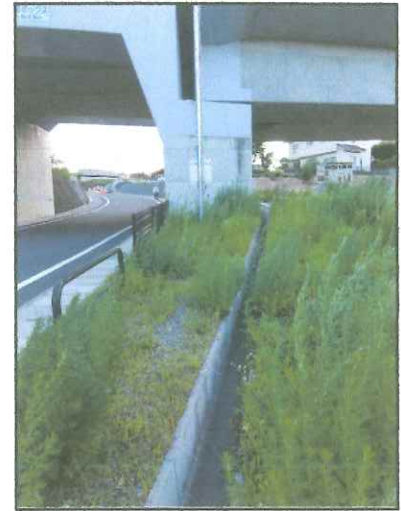
(③解説版と金井東裏陸橋)



(④金井南牧5号ボックス付近
工事案内用の看板を流用
したもの)

<改善点>

- ・ 広範囲に渡って草が生い茂っており、草刈り等の手入れが行われていない。
- ・ 排水溝が入口と敷地内を分断するように延びており、渡り板等は設置されておらず、足の悪い方が入りづらい状況になっている。(⑤)
- ・ 調査時の4区(金井IC寄り)と9区(川島・高山IC寄り)の境目である無舗装の道路によって敷地が分断されている。(⑥)
- ・ アクセスできる道路の道幅が狭い他、県道35号線沿いに案内板が無いいため、場所が分かりづらい。(⑦)
- ・ 駐車場が存在しない。



(⑤排水溝)



(⑥敷地を分断している道路)



(⑦Google Earthより引用、一部改変)

③黒井峯遺跡

<良かった点>

- ・ 概要を示す解説板が設置されていた。(⑧)
- ・ VR技術を用いた、当時の景色を紹介するコンテンツが使用できる小さなプレートが複数設置されていた。(⑨)
- ・ 遺跡から南東に200m程の地点に、国交省の規則による「著名地点」の形式で案内板が設置されていた。(⑩)



(⑧解説板↑)

- (⑨VRコンテンツが使用できる旨を示したプレート)



(⑩案内板)



<改善点>

- ・前述した解説板の下にはパンフレットが入っている箱があるが、一枚も入っておらず、その上プラ袋が2枚入っていた。(⑩)
- ・駐車場はあるが、子持中学校の校門の目の前にあり、生徒の登下校に支障が出る可能性がある。又、舗装されていない。



<全体の改善点>

(⑩パンフレット入れの中の様子)

①訪問者がほぼ皆無

各所30分程滞在したが、一人も訪問者の姿は見受けられなかった。

黒井峯遺跡の近くの畑で草刈りをしていた男性は、

「最近は昔に比べて訪れるひとがめっきり減った。月に10人もいないと思う。」と話していた。

②整備・管理の手が行き届いていない

どの場所も草が生い茂っている等の手入れがされていない状況であった。

黒井峯遺跡では、パンフレットが補充されておらず、その上パンフレットが入っていたと思われるプラ袋が2枚放置されていた。

③アクセスしにくい

近辺に国道等の大きな道路はあるが、そこから遺跡へと伸びる道路は狭く、その上分かりづらい場合が多かった。

駐車場は黒井峯遺跡のみにあるが、舗装されていない等十分に整備されていなかった。

④あまり有効活用されていない

どちらも考古学上非常に重要な遺跡だが、見学会等のイベントは早期に行われたのみで、定期的なイベント等は行われていない。

⇒来訪者増加のため、どのような手法で有効活用するのか。

IV.提案

改善点や先行事例を踏まえ、最適な方法を考える。

<先行事例>

I.国営平城宮跡歴史公園における「平城宮跡ゾーニング(案)」

- ・公園内を以下のゾーンに分割し、それぞれに利用・活用のイメージを持たせる。
①遺構復元 ②水辺 ③多目的利用 ④エントランス ⑤遺構表示 ⑥体験
- ・この際、新たに施設等を整備する際は、地下遺構保護の為特別史跡区域外に限定する。又、今後の発掘成果等により、利用計画を柔軟に見直す。
(史跡を活用した国営公園の整備検討業務 報告書 7章より)
(国土交通省,2008)

II.史跡・北斗遺跡(北海道釧路市)におけるグランピング

- ・2020年11月28~29日に、釧路観光コンベンション協会と道東のアウトドア事業に乗り出す三ツ輪商会(釧路市)が「釧路湿原国立公園『縄文・擦文遺跡』野遊びフィールドキャンプ」と題し、釧路湿原国立公園内にある国の史跡・北斗遺跡で特別な許可を取ってグランピングを開催した。
- ・文化庁によると、国立公園内の史跡におけるグランピングは初めて。
- ・釧路湿原のトレッキングの他、道東の特産品を使ったバーベキューや、縄文太鼓及びアイヌ伝統楽器の演奏が行われた。
(毎日新聞北海道版 2020年12月10日より)
(釧路・阿寒湖観光公式サイトより)

III.新潟県上越市による「『弥生のムラ』コミュニティパーク事業」

- ・平成17年に発見された弥生時代末期から古墳時代初期の集落跡である国の史跡・釜蓋遺跡で、上越市が遺跡を発信し、多くの歴史研究者が集まる場にしようと、2015年頃から考古学を学ぶ大学生に発掘への参加を呼びかけている。
- ・吹上・釜蓋遺跡応援団が主催する遺跡まつりや釜蓋遺跡ガイドンス定期講座等により、市民へ魅力を発信している。
- ・市内の小学校と連携し、総合的な学習の時間の一環として遺跡内に整備済みの釜蓋遺跡公園・釜蓋遺跡ガイドンスを活用している。
- ・費用は国宝太刀収集事業寄付金*3及びふるさと納税の一部を使用している。
(上越市平成30年度決算書 p225~226より)
(上越妙高タウン情報 2018年9月12日
「学びのタイムスリップ!釜蓋遺跡発掘調査に学生参加」より)

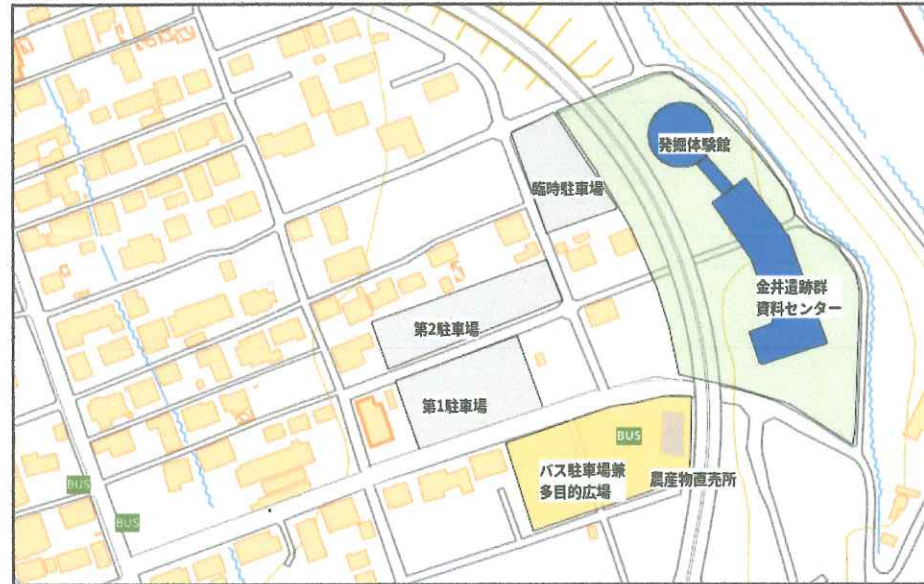
<改善案>

①金井下新田遺跡

- ・解説板の周りを舗装し、安全に見学できるようにする。
- ・金井ICに金井東裏遺跡を含めた案内板を設置する。

②金井東裏遺跡

- ・敷地内の東部及び近隣の畑を使用し、「甲を着た古墳人」を初めとした発掘されたものを展示する「金井遺跡群資料センター」を整備する。
- ・敷地の南部に、バス駐車場に地元で生産された野菜等を販売する農産物直売所を併設した多目的スペースを作り、資料センターの訪問者増加=古墳文化の更なる発信に貢献させる。
- ・遺跡の発掘が体験できる「発掘体験館」を(地理院地図より ツール「作図・ファイル」を用いて改変したもの)整備し、発掘する面白さを伝え、古墳時代の魅力を更に発信する。
- ・県道35号線から遺跡までの道路を拡張し、車の往来がしやすい環境にする。
- ・関越交通「神田原・祖母島線」「青葉台・りんご団地線」が乗り入れるバス停を新たに遺跡付近に設置し、利便性の向上を図る。
- ・遺跡を縦断する道路を廃止し、安全に敷地内を移動できるようにする。
- ・排水溝を含めた入口の付近を舗装し、安全に移動できるようにする。
- ・この他、金井東裏遺跡の案内板・広告を以下の場所に設置し、訪問者増加を図る。



- ・上信自動車道金井IC付近
- ・県道35号線金井本陣児童公園付近
- ・県道35号線金井交差点付近
- ・県道33号線明保野交差点付近
- ・関越自動車道渋川伊香保IC付近
- ・上信自動車道の駅八ッ場ふるさと館付近
- ・関越自動車道高崎～前橋IC付近
- ・渋川駅ホーム及び駅前付近

- ・月に2~3回小学生向けに「金井東裏いせき入門講座」を、
中・高校生以上向けに「金井東裏遺跡探究講座」を実施し、若年層へ魅力を発信する。
- ・市内の小学校の総合的な学習の時間、中学校の社会科を通して、本遺跡に関する調べ学習及び出前講座、探究活動を行う。
- ・草刈り等の定期的な整備は、地域の自治会やこども会等と協力して行う。

⇒地域ぐるみで運営・管理を行い、利用者増加に寄与する
ような施設を活かして発信する

③黒井峯遺跡

- ・遺跡付近に黒井峯遺跡から発掘された土器等の展示、及びプロジェクションマッピングを用いて当時の景色を体験できるコーナーを設けた「黒井峯遺跡資料館」を整備する。
- ・展望カフェを整備し、若年層の訪問者増加に寄与させる。
- ・遺跡内の一部を活用し、
グランピングを年に数回実施する。



(地理院地図より ツール「作図・ファイル」
を用いて変更したもの)

(グランピングの主な内容)

- ・黒井峯遺跡をガイドとともに散策
- ・発掘調査体験
- ・市内をバスで観光
- ・古墳時代の食事を再現した朝食
- ・渋川産の食材を使った夕食
- 等
- 古墳時代&渋川市の魅力を発信
- ファミリー層の訪問者増加

- ・遺跡北部に集落再現エリアと、古墳時代の農業が体験できる農作業体験エリアを整備し、古墳時代の人々の生活の様子等を発信する。
- ・遺跡西部に発掘調査実習エリアを整備し、考古学を学ぶ大学生の体験学習等で活用する。
- ・案内板を、金井東裏遺跡と同じような場所に(または併設で)整備する。

⇒様々な方法で活用できる施設を整備し、
体験を通して幅広い年齢層の人々に発信する

④その他

- ・ X(旧Twitter)やInstagram、Facebook等のSNSを使い、施設のみどころや開館情報等を発信する。
- ・ 県立歴史博物館等の博物館で企画展や講座を定期的を開催する。
- ・ 整備・運営等の為にふるさと納税や募金、クラウドファンディング等を活用して資金を集める。又、ガイドやスタッフ等にボランティアを充当する。
- ・ 地元企業と連携し、様々なイベントを行う。
(農産物マルシェ、酒蔵による試飲会、直売所など)

⇒企業と連携し、地元のよさを発信する魅力的なイベントの開催によって、訪問者増加につなげる

⑤まとめ

- ・ 効率的な運営をすることで、長きにわたって古墳人の文化・生活の魅力を発信できる
- ・ 地域と連携して運営する施設により、幅広い年代の人々に利用してもらい、文化を発信していくことができる
- ・ 地元企業や地元全体と連携することで、魅力的なイベントを開催することができ、訪問者の増加＝古墳人の文化発信、そして渋川市の新たな観光需要の開拓に寄与することができる

V.最後に

今回の研究で提案したことの実現は、予算面・法律面でかなり難しい。然し、需要を生み出すような設備・運営が実現できる可能性が高ければ、一步前進するかもしれない。長い年月をかけて検討し、多くの人々の意見を取り入れた施設にすることがもっともだ。

又、このような設備がなくても、まずは学生等の若い世代の時から自発的に遺跡や文化の魅力や重要性について学んでいくことが大切だと思う。少しずつ学び、より多角的に遺跡について考えられるようになっていけば、更に良い発信の仕方が見つかるかもしれない。

今後、古墳人文化の更なる発信に向け、事例や遺跡の更なる可能性について調べ、考え続けていきたいと思う。

<謝辞>

本研究の調査にご協力して下さった北牧地域の方に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

VI.参考文献

- ・旧子持村の指定文化財(渋川市ホームページ)

<https://www.city.shibukawa.lg.jp/kankou/midokoro/history/shiteibunkazai/p000291.html#kuroimine>

- ・土木工事標準設計図集 16.道路標識(国土交通省近畿地方整備局)

https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/jigyousya/technical_information/consultant/s_tandard_drawing/qgl8vl0000005g3e-att/zushu_16_1-16.pdf

- ・史跡を活用した国営公園の整備検討業務 報告書 7章(国土交通省)

<https://www.mlit.go.jp/common/000030224.pdf>

- ・「釧路湿原・史跡でグランピングを 北斗遺跡、特別な許可得て実現」
(毎日新聞北海道版,2020年12月10日)

<https://mainichi.jp/articles/20201210/ddl/k01/040/046000c>

- ・釧路湿原国立公園「縄文・擦文遺跡」野遊びフィールドキャンプ
(釧路・阿寒湖観光公式サイト)

<http://ja.kushiro-lakeakan.com/news/15077/>

- ・上越市平成30年度決算書 p225~226

<https://www.city.joetsu.niigata.jp/uploaded/attachment/169595.pdf>

- ・「学びのタイムスリップ! 釜蓋遺跡発掘調査に学生参加」
(上越妙高タウン情報,2018年9月12日)

<https://www.joetsu.ne.jp/56978>

- ・Google Earth (航空写真に利用)

<https://earth.google.com/web/>

- ・地理院地図 (ツール「作図・ファイル」を用いて構想図作成に利用)

<https://maps.gsi.go.jp>

VII.注釈

*1遺跡の概要や歴史、発掘物の一覧等を説明する看板。

*2道路及び付近の土地に設置されている、遺跡の位置等を示す看板。

*3上越市が、市にゆかりのある上杉謙信の愛刀で国宝の「太刀無銘一文字(山鳥毛)」を購入するために、2016年から市民団体と共に市内外で行っていた募金活動。然し、所有者と市の間で金額の折り合いがつかず、白紙となった。現在では市内の文化的施設の維持等に使用されている。尚、「山鳥毛」は、令和2年3月22日から、岡山県瀬戸内市の所有になっている。